



## ➔ 第4回高校生即興型英語ディベート全国大会に出場！

12月22日（土）23日（日）の2日間に渡って東京大学駒場キャンパス生産技術研究所にて、一般社団法人PDA パーラメンタリーディベート人材育成協会主催「第4回高校生即興型英語ディベート全国大会」が行われました。以下は、引率して下さった英語科の深宮先生からの報告です。

日比谷高校は昨年に続き、2回目の参加でした。

### 1st round: Using private homes as hotels for school trips should be banned.

（修学旅行での民泊を禁止すべきである） 勝ち vs. 大阪教育大学附属高校平野校舎

### 2nd round: Japan should raise the pension age to 70 years old.

（日本は年金開始年齢を70歳に引き上げるべきである） 負け vs. 藤島高校（福井県）

### 3rd round: Affirmative action should be taken for female students with science and engineering background.

（理系の女子学生に対して積極的優遇措置を取るべきである） 負け vs. 岐阜高校

### 4th Accepting more foreign workers will give Japan benefit than harm.

（外国人労働者を受け入れることは害よりも恩恵をもたらす） 勝ち vs. 城南高校（福岡県）

日比谷チームは健闘しましたが、全国の強豪校には一歩及ばず、66校中26位と決勝ラウンド進出はなりません。しかし、チームの一人が、その鋭い指摘や視点が評価され、「POI賞」に輝きました。POI (Point of Information)とは、スピーカーを除いた全員に対して相手サイドが立って質問・指摘をするものです。

2日目の決勝ラウンドの前にPDA理事の中川智皓先生から「ぜひ本質的な問題とはなにか考えて欲しい」という指摘がありました。ディベートでは勝敗を競うため、つい小手先のテクニックに走りがちで、相手の提示する論点に引きずられて瑣末な議論に陥りがちですが、そうではなく、各 motion (論題) を議論する際には是非を問うべき本質的な論点とは何かを明確にしてから、その論証のために論拠を組み立てることが大切です。授業でディベートに取り組む際に、心に留めておいてもらいたいポイントです。

### （代表チームの感想）

全国の高校生とディベートを通して交流することができ、とても楽しい貴重な経験になった。即興型ディベートにおいて、英語で相手に自分の考えをわかりやすく伝える力はもちろん大切だが、チームワークや作戦がカギとなる戦いだと強く実感した。また、伝えたいことがどこまでも溢れ出てくる白熱した決勝を見て、圧倒されるとともに、悔しさが沸き上がってきた。この気持ちを胸に、今後もディベート活動に積極的に取り組んでいきたい。

この大会では本当に多くの刺激を受けることができました。1番強く感じたことは、ディベートは個人競技ではないということです。自分の話す番ではないから気を抜いたりするのではなく、相手の主張を常に聞きながら疑問が浮かんだら積極的にPOIを行ったり、仲間には論点を広げるためのヒントを書いたメモを渡したりと一瞬の間に全員が出来るだけのことを行うことが大切だということがわかりました。とても貴重な機会なので1年生にはぜひ積極的に来年参加してもらいたいと思います。

全国で目標だった10位に入ることができなかったので残念であったものの、それぞれのラウンドで多くのことを学ぶことができました。「いかに上手く定義するか」、これがこれからの自分の課題だと感じました。これからのコミュ英のディベートに今回の経験を生かしていこうと思いました。

※ 英語授業の風景から

2年生は授業でディベート活動を行っており、大きな成果を上げています。1つの論題について、肯定側と否定側の2チーム(1チーム4名)に分かれてディベートを行なっています。それぞれの生徒が自分の意見や考えを英語でしっかり表現できるようになっています。ディベート活動の有効な点は、他の英語の勉強、例えば単語を覚えたり、語法や文法を学ぶことを、単に暗記するものということではなく、よりよい表現をするためのもの、と捉えられることです。ディベートをしている時には「言いたいことがあるのに単語が出てこない」、「主張はあるがうまく英語にできない」といった悔しい思いをよくするはず。そういったことを克服するために、単語や文法を強化していくわけです。単なる「暗記」という目的から、「コミュニケーション」を目的とすることができれば、英語力は一気に上がります。

今後は、自分の意見を英語で主張するだけでなく、その意見を「オーディエンスに納得させる」という目標をもってください。現時点では、その点がまだ課題になっていると感じます。最も高いハードルになりますが、現2年生は超えてくれると確信しています。

➔ 国際機関で要職を歴任 一橋大学教授 嘉治 美佐子氏 講演会

欧州連合日本政府代表部、国際連合日本政府代表部、国連難民高等弁務官 (UNHCR) など、世界の第一線で日本の代表として活躍されている嘉治美佐子氏が本校に来校し、講演をしてくださることになりました。大変光栄で、貴重な機会となります。奮って参加してください。参加希望者は、LL 準備室前の票に記名してください。定員となり次第締め切ります。

また、今回は嘉治氏への質問事項を募集します。実際に聞いてみたいことなどを、下記の用紙に書いてLL 準備室前の箱に提出してください。

<b>嘉治 美佐子氏 講演会</b>	
日時	平成 31 年 2 月 7 日 (木) 15 時 30 分から 17 時まで
場所	本校大会議室
対象	全校生徒
申し込み	LL 準備室前の表に記名 (1 月 25 日締切)
質問用紙	LL 準備室前の箱に提出 (1 月 31 日締切)

※ 嘉治 美佐子 Profile



東京大学経済学部卒、オックスフォード大学修士。  
在英日本大使館、欧州連合日本政府代表部、在ベトナム日本大使館、国際連合日本政府代表部、国連難民高等弁務官 (UNHCR)、総理官邸に勤務。外務省人権人道課長、儀典総括官、中東アフリカ局審議官などを歴任。  
2012 年～14 年東京大学教養学部教授、2014～16 年在ジュネーブ国際機関日本政府代表部次席大使、2017 年～ 一橋大学教授。  
著書に『国際社会で働く 国連の現場からみえる世界』 NTT 出版 2014 年がある。

キリトリ

講演会での質問事項

フリガナ  
R 氏名

Blank box for writing questions.

LL 準備室前の箱に提出